

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：35409

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03619

研究課題名(和文)イノベーション, 企業間競争及び国際的生産活動のダイナミクスに関する研究

研究課題名(英文)A study on innovation, competition among firms, and dynamics of international production activities

研究代表者

春名 章二 (HARUNA, Shoji)

福山大学・経済学部・教授

研究者番号：30136775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は企業間の技術の競争関係と市場の競争関係に着目し、国際貿易や海外直接投資及びイノベーション活動とそのグローバル展開を主な考察対象として、企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスを理論と実証の両面から分析することを目的とする。次のトピックスに関して実証的・理論的分析を行った：(1)技術と財市場の競争関係とイノベーションの分析；(2)所有形態によるイノベーションと国際化戦略の相違の分析；(3)ナイト流不確実性下の企業の国際的生産活動の分析；(4)地域貿易協定が企業間競争関係とイノベーションに与える影響の分析；(5)企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスの分析

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の実施によって国際的に高く評価される学術的意義のある貢献を行なった。学術的貢献は大きく分けて3点ある。1つ目は、高いインパクト・ファクターを有する国際的学術専門誌に複数の論文が掲載された。2つ目は、国際的に評価される同専門誌に研究論文が数多く掲載された。加えて発表された論文の中で、1つの論文が「TOP DOWNLOADED PAPER 2018-2019」に選ばれたことである。3つ目は、本研究の分担者の1人が、優れた国際経済学の研究者に贈られる日本国際経済学会小島清賞研究奨励賞を2019年に受賞したことである。研究業績面で本研究の研究成果がその受賞に貢献した。

研究成果の概要(英文)：We pay attention to the relationship of both technology and market competition among firms, and then to focus on international trade, foreign direct investment, and international activities of firms and their global developments as main subjects of investigation. The purpose of our research is to consider the dynamics of foreign production and supply activities of firms. We had analyzed the following topics from empirical and theoretical aspects: (1) Analysis of a competitive relationship between technology and good markets; (2) analysis of a relationship between a form of firm ownership and its innovation and globalization strategies; (3) analysis of global production activities of firms under Knightian uncertainty; (4) analysis of impacts of regional trade agreements on a competitive relationship among firms and innovation; and (5) analysis of dynamics of international production and supply activities of firms.

研究分野：産業組織論

キーワード：イノベーション 地域貿易協定 技術的競争関係 ナイト流不確実性 R&amp;D スピルオーバー

## 1. 研究開始当初の背景

国際貿易論の分野では、Bernard & Jensen (1995, 1999)を始めとする企業レベルのミクロデータを扱った数多くの実証研究と、Melitz (2003)や Helpman, Melitz, & Yeaple (2004)以降に展開されてきた「異質な企業モデル」による多く理論研究の結果、企業の多様な国際化戦略と、その結果としての二国間貿易及び海外直接投資 (FDI) の構造に関するミクロレベルでの解明が急速に進んだ。そこで、研究が必要とされる課題として以下の2つを挙げることができる。

### (1) イノベーションと企業間競争に関する研究

研究開発 (R&D) や企業間・国際間の技術スピルオーバーが産業の国際競争力に与える影響は大きい。最近の研究では、貿易自由化や輸出市場への参入が企業のR&Dのインセンティブに与える影響 (Atkeson & Berstein, 2010; Bustos, 2011) 及び輸入との競争関係 (Liu & Rosell, 2013) や企業自身の国際展開 (Bakhtiari et al., 2014)がイノベーションのタイプ (基礎・応用研究) 選択に与える影響等が着目されている。他方、国有企業に対する規律がTPP (環太平洋パートナーシップ協定) に組み込まれたように、国有企業と民間企業との競争、国有企業改革の効果等への関心が高まっている。この領域では、混合寡占におけるR&D や技術スピルオーバーに関する研究 (Haruna & Goel, 2015) に加えて、中国企業やベトナム企業のデータ分析等を通じて国有企業の市場歪曲性や貿易自由化が企業間競争に与える影響に関する研究 (Khandelwal et al., 2013) 等が活発に行われているが、未解明の領域に対する一層の研究が求められている。

### (2) 企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスに関する研究

多国籍企業 (MNEs) は複数国に生産拠点を構えたり、独立した企業が貿易を通じた取引関係を築いたりすることで複雑な国際的な生産ネットワーク (またはグローバル・バリュー・チェーン (GVC)) を構築する。企業内貿易の果たす役割 (Irarrazabal et al., 2013) や、本社と海外現地法人間の技術移転費用や産業の知識集約度による技術移転費用の違い (Keller & Yeaple, 2013)、あるいは所有権、不完備契約等の影響 (Antras & Chor, 2013) 等の様々な要素に着目した分析が近年盛んに行われてきている。また、親会社と子会社間のR&D と生産の分担がどのような要因によって決まるのか (Arkolakis et al., 2013) といった点に関する分析も行われてきている。しかし、地域貿易協定 (RTA) 締結を始めとする貿易・投資政策が企業内貿易や本社・子会社間の技術移転等を通じて国際的生産・供給活動に与える影響についてはまだ余り分析が行われていない。他方、意思決定理論では従来のリスクの概念よりも幅広い概念であるナイト流不確実性を考慮することの重要性が研究者の間で広く認識されるようになってきている。ただ、ナイト流不確実性が輸出とFDI の選択や企業の国際的生産活動に与える影響に関するいくつかの研究 (Asano, 2010; Ramondo et al., 2013) はあるものの、未だ十分なそれらの影響の解明に至っていない。更に、企業特性と市場への参入に関する研究は数多く存在するが、退出に関する研究は最近始まったばかりである (Engel et al., 2013; Hayakawa & Matsuura, 2013; Impullitti et al., 2013)。従って、企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスに関して今後一層の解明が求められる。

## 2. 研究の目的

前述のような学術的背景を踏まえて、本研究では、「イノベーション」、「企業間競争」、「国際的生産・供給活動」という相互に強く関係し合う企業活動にとって重要な要素を「所有形態」、「不確実性」、「政策」という3つの切り口により、5つのテーマに分けて分析を行う。

### (1) 技術及び財市場の競争関係とイノベーションに関する分析

技術の競争関係と財市場での競争関係を区別して計測することにより、本応募研究代表者らがこれまでに行ってきた貿易・FDI と技術スピルオーバーに関する研究を更に発展させ、貿易及びFDI と企業のR&Dに関するより詳細な実証的な解明を行う。

### (2) 所有形態によるイノベーション及び国際化戦略の相違に関する分析

R&D とこれから発生する技術スピルオーバーについて民間企業 (私企業) と国有企業 (公企業) との違いを (国際) 混合寡占市場のモデルによって多面的に分析するとともに、理論分析から得られた結果について、国有企業データによる実証分析を行う。

### (3) ナイト流不確実性下での企業の国際的生産活動に関する分析

輸出かFDI か、子会社による生産かアウトソーシングかといった国際的生産・供給モードの選択では、コストや需要、規制・政策等の様々な要素に各種の不確実性が必ず内在する。如何なるタイプの不確実性がどのような影響を国際的生産・供給モードの選択に与えるかに関する先行研究 (Alvarez & Stenbacka, 2007) は部分的な解明に留まる。そこで、その解明をより一層進展させるとともに、実証分析によって理論的予測の妥当性を検証する。

### (4) RTA が企業間競争関係とイノベーションに与える影響に関する分析

国際的生産ネットワークを構築する多国籍企業の活動に本国とホスト国間あるいはホスト国間のRTA の締結状況やRTAの条項は大きな影響を与える。そこで、RTA の締結状況・条項が日本の多国籍企業の海外進出や研究開発のグローバル展開に与える影響を実証的に解明する。特に、多国籍企業の生産・研究開発ネットワーク構築に関する分析をRTA という新たな

視点から行う。

#### (5) 企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスに関する分析

FDI を通じた海外市場への参入が自国に近い国から順に行われることを示した Egger et al. (2014) の研究、海外市場からの撤退要因を分析した最近の研究 (Engel et al., 2013; Hayakawa & Matsuura, 2013) 等の成果を踏まえ、参入・退出に関する理論分析を行うとともに、日本企業の海外進出に関するデータを用いて、参入・退出のパターンや複数の現地法人間の統廃合、企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスへの企業やホスト国の特性の影響を実証的に分析する。

### 3. 研究の方法

テーマに関して研究代表者と分担者が協力して理論研究と実証研究の両面から分析を行い、その成果を共同論文としてまとめることに重点を置いた。理論研究では最新の研究を踏まえて理論モデルを構築し、定性的分析によって理論的成果を導いた。他方、実証研究では二国間貿易データ (BACI Dataset) や日・米・欧の特許及び特許引用データ (USPTO, EPO Datasets, Worldwide Patent Statistical Database (PATSTAT)), 更に日本企業の外国直接投資 (FDI) に関する調査の個票データ (企業活動基本調査, 海外事業活動基本調査), WTO Databases, NEEDS 企業金融レポート等を用いて、貿易・FDI と技術スピルオーバー及び FDI と Tobin's  $q$  との関係について多面的で詳細な分析を行った。他に、本研究の代表者と分担者は本研究のテーマに関して国内または海外の他の研究者と共同研究を行い、研究成果を導いた。

研究成果をまずは国内外のコンファレンス等で報告して客観的な検証に努め、同じ分野の研究者に助言を求めた上で再検討と論文の改訂作業を繰り返し、国際的に評価される水準に成果を高めた上で、論文を査読付の海外の専門誌に投稿して公表することに務めた。

### 4. 研究成果

前述のような学術的背景を踏まえて、本研究では、「イノベーション」、「企業間競争」、「国際的生産・供給活動」という相互に強く関係し合う企業活動にとって重要な要素を「所有形態」、「不確実性」、「政策」という3つの切り口に基づく視点から取り上げた5つのテーマに関する研究結果を集約すると以下ようになる。

#### (1) 技術及び財市場の競争関係とイノベーションに関する分析

FDI の類型と、多国籍企業と投資受入国の国内企業との間の技術スピルオーバーとの関係について分析した。FDI が技術スピルオーバーの主要な経路の1つであることは多くの先行研究によって知られているが、垂直的 FDI や水平的 FDI といった FDI の類型によって、技術スピルオーバーの程度に違いがあるか否かを明らかにした研究はない。本研究では日本の多国籍企業の海外進出に関するデータと特許引用データを用いて実証分析を行った。FDI の分類では、海外現地法人の国内及び日本、第三国との取引関係 (調達及び販売) に基づく指標化を行った。分析の結果、投資受入国が先進国である場合は、FDI が垂直型であると、多国籍企業と現地企業との間で技術スピルオーバーが促進される傾向があることが明らかになった。実証分析から得られた結果を説明するために、理論モデルを構築し、実証分析の結果が理論的に説明できることを示した。更に、技術の競争関係と財市場の競争関係を区別しながら、貿易・FDI と技術スピルオーバーとの関係を分析する研究に取り組み、分析手法について検討を行った。

企業の生産活動のオフショアリングに関する選択と、その企業のトービンの  $q$  との関係に着目した分析を行った。企業が生産活動をオフショアリングするモードとして、海外アウトソーシング (FO) と FDI から選択する。生産工程が複数の段階で構成されており、各段階の生産工程について、FO と FDI のいずれかを選択することからオフショア活動における FO のシェアを求めることができる。そこで、日本企業のミクロデータを用いてトービンの  $q$  と企業のオフショアリング・モードの選択との関係を分析した。そして Chen, Horstmann, and Markusen (2012) が導いた理論的結果 [トービンの  $q$  は企業のオフショア活動における FO のシェアと負の関係にある] が実証的にも成立することを証明した。この研究結果は The North American Journal of Economics and Finance 誌に発表された。

#### (2) 所有形態によるイノベーション及び国際化戦略の相違に関する分析

現在の大きな社会経済問題である環境と生産活動に焦点を当て、排出量削減のための企業のイノベーションに分析を集中させた。分析モデルとして先行研究で多く用いられた純粋寡占モデルではなく、私企業と公企業からなる混合寡占モデルを取り上げている。混合寡占にイノベーション及びそのスピルオーバーを組み込むモデルを構築した。そして公害物質を排出する混合寡占企業の排出削減のための研究開発 (R&D) 活動が産出量と排出量に与える影響について理論分析を行い、得られた研究成果を Australian Economic Paper 誌に公表した。この論文は 2018 ~ 2019 年に AEP 誌から出版された論文の中から TOP DOWNLOADED PAPER に選ばれた。

#### (3) ナイト流不確実性下での企業の国際的生産活動に関する分析

コストや需要、規制・政策等の様々な要素に各種の不確実性が内在することを踏まえた上で、如何なるタイプの不確実性がどのような影響を国際的生産・供給モードの選択に与えるかに分

析を集中して研究を進めた。ナイト流不確実性下でのリアルオプション分析の枠組みを用いて、ナイト流不確実性が子会社生産かアウトソーシングかといった企業の国際的生産・供給モードの選択にどのような影響を与えるかに関して理論分析を中心に研究を進めた。

前年度から引き続き本テーマに取り組み、滑らかな曖昧性モデル (smooth ambiguity) において、曖昧性が意思決定者の最適投資行動に与える効果を分析した論文が *Annals of Operations Research* 誌に掲載された。本論文は、risky asset と ambiguous asset の二つの資産への投資選択問題において、曖昧性の存在が ambiguous asset への投資を減少させる十分条件を導出した。更に、本研究によって、国際分散投資の問題において重要なパズルである、ホームバイアス・パズルを説明できることを示した。また、意思決定者の belief の updating に関する公理化論文が *Economic Theory* 誌に掲載された。本論文は、動学的整合性 (dynamic consistency) 及び帰結主義 (consequentialism) を踏まえて、意思決定理論で重要な 3 つの updating rules を同じ方法論で公理化する研究を進展させた。特に、*ET* 誌は高インパクト・ファクターを有し、経済学分野では世界的に高く評価されている。

#### (4) 地域貿易協定 (RTA) が企業間競争関係とイノベーションに与える影響に関する分析

RTA の締結状況が MNEs の生産ネットワーク構築や研究開発のグローバル展開に与える影響を分析するために、まずは RTA 協定に含まれる条項の項目から地域統合の深化の程度を測定し、それが協定加盟国間の技術スピルオーバーに与える影響の実証分析を行った。また、RTA が自由貿易協定 (FTA) である場合には原産地規則 (ROO) が設定されるが、ROO の水準に応じて域外国企業が域内に生産拠点を設けるかどうかを選択し、それが域内国企業への技術スピルオーバーの有無を左右するメカニズムに着目した理論分析を行った。その結果、FTA の締結前に GATT/WTO を中心とした多国間の貿易自由化が進展するにつれて、ROO の最適水準が低下するという興味深い理論的予測結果を得た。この研究成果は、*Japan and the World Economy* 誌に掲載された。

RTA の「深度」を考慮した分析を取り入れた研究を行った。この研究では RTA の締結国/地域の中で、地域統合の深度が技術スピルオーバーに対して重要か否かを実証的に考察した。特許引用データを用いた分析により地域統合の深度が技術スピルオーバーの程度に影響を与えることを示す結果を得た。更に、RTA に含まれる様々な条項の効果の違いを捉えるために、因子分析に基づいて様々な条項を分類して技術スピルオーバーに対する影響を推定し、技術に関連する条項を含む RTA よりも、広い意味でのより深い地域統合に寄与する条項を多く含む RTA の方が技術スピルオーバーにより強いインパクトを与えることを明らかにした。この研究成果は *The World Economy* 誌に発表された。

知識フローの指標として特許引用データ (USPTO) を利用して、企業間におけるグローバル社会ネットワークの知識フローへの効果を分析し、同じ構造クラスター内に属する企業同士は異なるクラスターに属する企業に比べて、より多くの特許引用を相互に行うことを実証的に明らかにした。この結果は *Journal of Technology Transfer* に掲載された。

RTA の「深度」が進展することで RTA 加盟国の企業間で共同研究が促進される効果に関して、理論と実証の両面から分析を行った。その結果、理論的には RTA による経済統合がより「深く」なることで RTA 加盟国企業間で共同研究が促進されるか否かは条件に依存することが明らかになった。他方、実証分析からはより「深い」RTA ほど RTA 加盟国企業間での共同研究が促進される傾向があることが示された。本テーマに関する暫定的な研究成果を国内外の学会やコンファレンス、セミナー等で報告した。

RTA の「深度」と RTA 加盟国間のライセンスングを通じた技術移転との関係について、理論と実証の両面から分析を行った。まず、異質な企業が輸出とライセンスング、FDI の中から外国市場に財を供給するモードを選択するモデルを構築し、貿易自由化や知財保護条項を含む RTA 締結の効果について理論的に分析した。更に、理論的予測に対してグラビティ・モデルによる実証分析を行い、概ねその予測を支持する結果を得た。途中段階の成果を学会等で報告し、分析の改善を重ねた。

#### (5) 企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスに関する分析

企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスの詳細な分析を行うために、理論モデルの構築と実証分析に必要なデータ整備と分析手法の検討を行い、予備的分析を行った。理論分析については、FDI による海外市場への参入パターンや海外市場からの撤退要因に関する既存研究の知見を踏まえて、企業の海外市場への参入・退出を分析するモデル構築を行った。また、企業の国際的生産・供給活動を巡る環境に対して、近年特に重要となっているのが政策的不確実性 (PU) の問題である。米国トランプ政権による貿易戦争や英国の EU 離脱 (ブレグジット) など、企業の国際的生産・供給活動に大きな影響を与える PU の高まりが見られる。本研究では、地 RTA や国際投資協定 (IIA) の締結が PU の低下を通じて海外直接投資や輸出、アウトソーシング等に与える影響に着目した。PU が FDI、アウトソーシング等を通じて企業の国際的生産・供給活動のダイナミクスに与える影響及び参入・退出のパターンや複数の現地法人間の統廃合に与える影響について暫定的な分析結果を得た。分析データについては、日本企業の海外展開に関するデータと世界各国の企業の生産・供給活動に関するデータの両面から整備を行った。

研究分担者の神事直人・京都大学教授は優秀な国際経済学の研究者に与えられる日本国際経済学会第14回小島清賞研究奨励賞を2019年9月に受賞した。本基盤研究Bによって得られた研究業績が氏の受賞に貢献している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Shoji Haruna and Rajeev K. Goel	4. 巻 58
2. 論文標題 Optimal pollution control in a mixed oligopoly with research spillovers	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Australian Economic Papers	6. 最初と最後の頁 21 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1467-8454.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Naoto Jinji, Xingyuan Zhang, and Shoji Haruna	4. 巻 42
2. 論文標題 Do Deeper Regional Trade Agreements Enhance International Technology Spillovers?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The World Economy	6. 最初と最後の頁 2326 - 2363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/twec.12797	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takao Asano and Yusuke Osaki	4. 巻 284
2. 論文標題 Portfolio Allocation Problems between Risky and Ambiguous Assets	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Annals of Operations Research	6. 最初と最後の頁 63 - 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10479-019-03206-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takao Asano and Hiroyuki Kojima	4. 巻 69
2. 論文標題 Consequentialism and Dynamic Consistency in Updating Ambiguous Beliefs	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Economic Theory	6. 最初と最後の頁 223 - 250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00199-018-1121-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuji Arai, Takao Asano, and Katsumasa Nishide	4. 巻 85
2. 論文標題 Optimal Initial Capital Induced by the Optimized Certainty Equivalent	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Insurance: Mathematics and Economics	6. 最初と最後の頁 115 - 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.insmatheco.2019.01.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takao Asano and Masanori Yokoo	4. 巻 80
2. 論文標題 Chaotic Dynamics of a Piecewise Linear Model of Credit Cycles	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Mathematical Economics	6. 最初と最後の頁 9 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jmateco.2018.11.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoto Jinji and Yoshihiro Mizoguchi	4. 巻 40
2. 論文標題 Rules of Origin and Technology Spillovers from Foreign Direct Investment under International Duopoly	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 47 - 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2016.09.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoto Jinji, Xingyuan Zhang, and Shoji Haruna	4. 巻 50
2. 論文標題 Does a firm with higher Tobin's $q$ prefer foreign direct investment to foreign outsourcing?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The North American Journal of Economics and Finance	6. 最初と最後の頁 101044 - 101044
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.najef.2019.101044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jiaming Jiang, Rajeev K. Goel, and Xingyuan Zhang	4. 巻 44
2. 論文標題 Knowledge flows from business method software patents: influence of firms' global social networks	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Technology Transfer	6. 最初と最後の頁 1070 - 1096
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10961-017-9645-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tadashi Morita, Yukiko Sawada, and Kazuhiro Yamamoto	4. 巻 22
2. 論文標題 Subsidy competition and imperfect labor markets	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Public Economic Theory	6. 最初と最後の頁 698 - 728
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpet.12400	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 The Trade Depressing Effect of Antidumping Investigations: The Case of Japan as the Target Country
3. 学会等名 European Trade Study Group Meeting 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Does Deep Economic Integration Facilitate International Research Collaboration?
3. 学会等名 日本国際経済学会第77回全国大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Vertical versus Horizontal Foreign Direct Investment and Technology Spillovers
3. 学会等名 European Trade Study Group Conference 2017 ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 張星源
2. 発表標題 Do Deeper Regional Trade Agreements Enhance International Technology Spillovers?
3. 学会等名 14th International Conference for Western Economic Association International ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅野貴央
2. 発表標題 Conditional Comonotonicity, Consequentialism, and Dynamic Consistency in Updating Ambiguous Beliefs
3. 学会等名 China Meeting of Econometric Society ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Do Deeper Regional Trade Agreements Enhance International Technology Spillovers?
3. 学会等名 Fall 2016 Midwest International Trade Meetings ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Does Deep Economic Integration Facilitate International Research Collaborations?
3. 学会等名 日本經濟学会2019年度春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Does Deep Economic Integration Facilitate International Research Collaboration?
3. 学会等名 The 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Deep Regional Trade Agreements and Cross-border Technology Transfer
3. 学会等名 APTS (Asia-Pacific Trade Seminars) 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Does Deep Economic Integration Facilitate International Research Collaboration?
3. 学会等名 Fall 2019 Midwest International Trade Meetings (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Deep Regional Trade Agreements and Cross-border Technology Transfer
3. 学会等名 日本国際経済学会第78回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 地域経済統合は何をもたらすのか
3. 学会等名 日本国際経済学会第78回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 The Value of Deep Regional Trade Agreements in Asia
3. 学会等名 Workshop on International Economics (Osaka University)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神事直人
2. 発表標題 Does Deep Economic Integration Facilitate International Research Collaboration?
3. 学会等名 46th Annual Conference of the European Association for Research in Industrial Economics (EARIE)（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	張 星源 (ZHANG Xingyuan)  (10304081)	岡山大学・社会文化科学研究科・教授  (15301)	
研究分担者	浅野 貴央 (ASANO Takao)  (40423157)	岡山大学・社会文化科学研究科・教授  (15301)	
研究分担者	神事 直人 (JINJI Naoto)  (60345452)	京都大学・経済学研究科・教授  (14301)	
研究分担者	澤田 有希子 (SAWADA Yukiko)  (50822227)	龍谷大学・経済学部・講師  (34316)	
研究協力者	ゴーエル ラジーブ (GOEL Rajeev K.)	教授	
研究協力者	中田 善文 (NAKATA Yoshifumi)		